



# 東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 171 Oct. 1. 2022

発行 公益社団法人  
日本山岳会東海支部  
〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMビル  
電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924  
郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」  
銀行口座 三菱UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



第14次インドヒマラヤ隊 Shaldor Ri(5942m)初登頂、Dzo Jongo(6211m)東峰第2登 本文P2参照

## 目次

○東海支部60周年記念登山		○同好会コーナー	村中征也 16
第14次インドヒマラヤ隊報告	星 一男 2	○回想の登頂記④	杉浦吉治 17
○第6期登山学校スタート	服田康宏 6	○登山用具あれこれ⑤	千葉泰丈 20
○山岳古道調査活動報告(2)	西山秀夫 8	○支部友コーナー	田中 進 20
○山書蒐集夜話(その2)	安藤忠夫 11	○委員会報告 山行/亀の会	22
○東海支部蔵書からの一冊33	石田文男 14	○会務報告	今津英一朗 25
○トピックス	15	○ルーム日誌・会員異動	今津英一朗 28
		○INFORMATION	星 一男 29
		○編集後記	

**東海支部 60 周年記念登山**  
**第 14 次インドヒマラヤ登山隊報告**  
**インド・ヒマラヤ ラダック州北部・ラダック山脈**  
**Shaldor Ri (5942m) 初登頂、Dzo Jongo (6211m) 東峰第 2 登**  
**総隊長 沖 允人 隊長 星 一男**

**登山期間：**

2022年 6月20日名古屋発—  
7月21日～28日名古屋帰着

**隊の編成**

総隊長：沖 允人(87歳)  
隊長：星 一男(71歳)  
登攀隊長：栗木 洋明(68歳)  
副登攀隊長：岩瀬 幹生(67歳)  
隊員：印藤 寿浩(63歳)  
          印藤 義子(63歳)  
          鍛次真由美(50歳)

**リエゾンオフィサー：**

ガジェンドラ・デシュムク  
(45歳)

**現地スタッフ：**

現地マネージャー  
ナムギャル・ネギ(48歳)  
現地サブマネージャー  
アクシャイ・シャルマ(39歳)  
マヤンク・シャルマ(34歳)  
ハイポーター  
ジート・ラム(54歳)  
テジ・ラム(56歳)  
キッチンスタッフ  
DB タパ 他 1 名

**概要**

**6月21日** 登山隊はデリー(New Delhi, 170m)に到着し、IMFを訪問、代表Col(retd)Vijay Singhと会議を開き、登山許可の最後の要請をおこなったが、第一目標のラダック州・パンゴン山脈・Merak 峰(6481m)と、第二目標としていたラダック山脈のLargap(6150m)はいずれもインド政府からの許可が取得できなかった。第三目標としていたラダック山脈のカン・ユーセイ山群のKang Yisay III (6401m)と周辺の無名峰に登山許可を申請し、急遽登山許可書を発行してもらった。



**6月23日** 空路ラダック州の首都レー(Leh(3505m))に移動し、数日滞在し、登山準備と高所順応を行った。

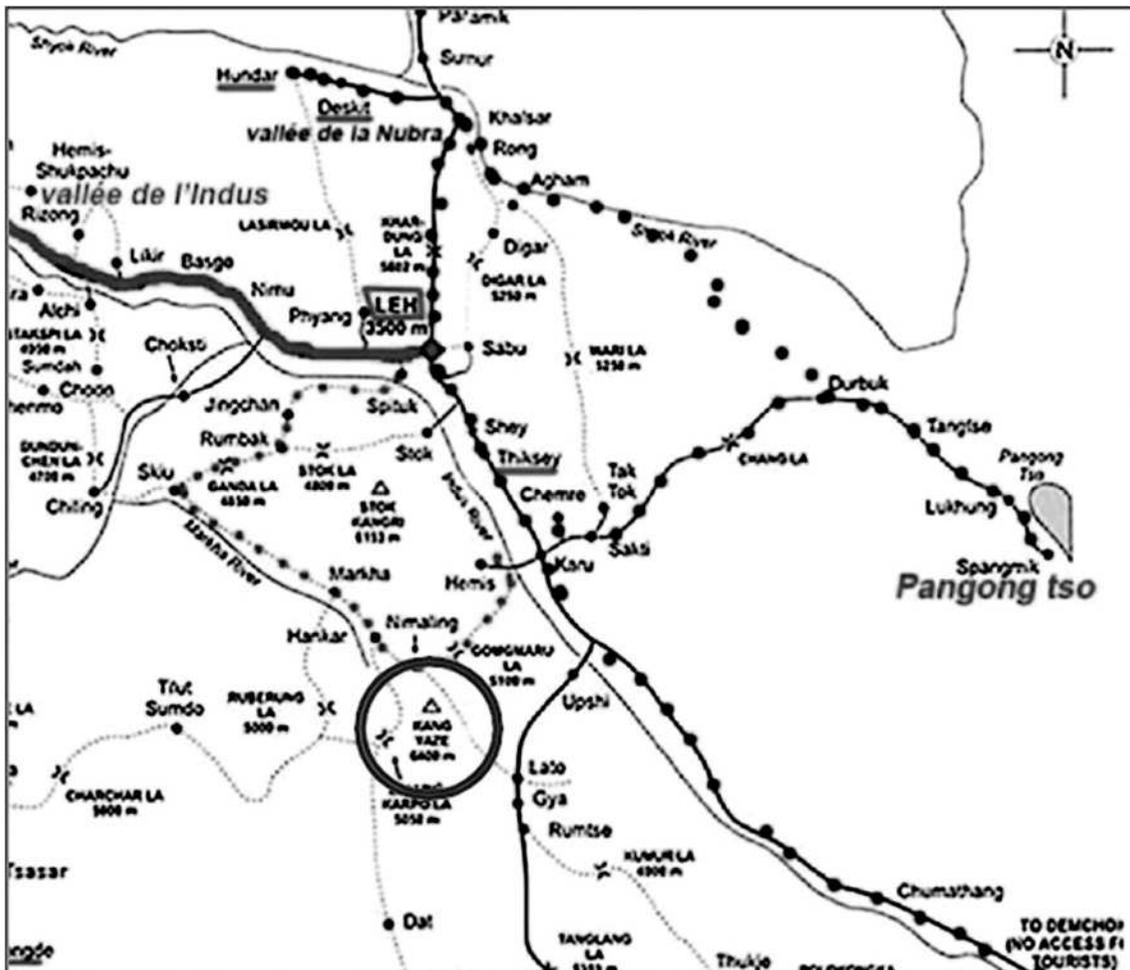
**6月28日** 中型車5台とトラック1台でレーを出発し、約50km先のカルー(Karu, 3800m)の少し先から南の谷に沿ったキャラバンコースに入り、車道の終点(Shang Sumudo)に到着した。事前に手配して待機していた24頭の馬に隊荷を積み、谷にそって出発した。

**キャラバン、車道の終点(Shang Smudo)からベースキャンプまで**

河原の中の道を進み、3時間で河原から離れて山の斜面を登り、2時間で中継点のキャンプ地(Chogdo Gongma)に到着した。総隊長の沖允人は、キャラバンの困難が予測され、高齢でもあることから、レーに帰り、ラダック地方奥地の探査旅行をすることにした。

**6月29日** 中継点のキャンプ地を徒歩で出発し、3時間でKonmaru La(コンマル峠5260m)

## 概念図



に到着した。コンマル峠からは、カン・ユーセイ山群の全容が望まれた。そこから南に細い道をくだり、約3時間で Nyimaling Chu(ニマリン谷)に降り立ち、約2時間ほど花場の咲き乱れる草原を移動して(5000m)地点に到着してキャンプした。隊荷は24頭の馬で運んだ。キャンプ地は広々とした草原で川も流れていた気持ちの休まる場所であった。

### 登山活動開始

**6月30日** キャンプ地を出発し、Nyimaling Chu 上流、Kang Yisay Mts. (カン・ユーセイ山群)の南側下部にBC(約5278m)を設営した。

**7月3日** 体調不良の印藤寿浩に同行して印藤義子と星一男隊長が馬と車を乗り継ぎ、急遽、レーに下山した。

その後の登山指揮は登攀隊長の栗木洋明が行った。

**7月5日** Shaldor Ri(シャドル・リ、5942m) ※1 初登頂、

**7月9日** Dzo Jongo (ドゾ・ジョンゴ、6211m) 東峰第2登を果たした。栗木洋明・岩瀬幹生・鍛次真由美による登頂記録は、別稿参照。

※2 標高はOlizane Mapによる

### 総括・反省・謝辞

インド辺境地帯の4000mを超す過酷な自然環境での高齢者を中心とした登山隊であったが、力を合わせ一応の目的達成した。

ご後援頂いた「中日新聞社」並びに「愛知県山岳連盟」、登山許可を頂いたインド政府並びに Indian Mountaineering Foundation=IM

F)、現地旅行エージェント  
デリー (SAGA IMPEX)、マナリ (TREK I  
NDIA OUTDOORS)、レー (HIDDEN HIMALAY  
A) 各社をはじめ多くの皆様のご支援・  
ご協力いただいた関係各位に心からお  
礼申しあげます。

### 登頂記録

以下の記録は、レーに下山後、隊荷の  
整理の間を縫って、星隊長とリエゾン  
オフィサーが同席して、栗木登攀隊長、  
岩瀬登攀副隊長、鍛次隊員が、ラリモ  
ーホテルで会議をもち、まとめたもの  
である。記録の整理は沖総隊長が担当  
した。

#### 6月30日

BC (5278m) 予定地 に 14 時 30 分 ごろ 到着  
し、BC を設営した。

7月1日 BC で全員が休養とした。

7月2日 Gapo Ri (6150m) の上部ルート偵察の  
ため、2 隊を編成した。インド人スタッフによる  
氷河チーム (ナムギャル・ネギ、ピウシ・シャ  
ルマ、ジートラム・タッカー) は、Gapori Gl.  
を詰めて、Gapo Ri (6150m) の西にのびたコル  
(山頂から 500m ほど西にある) まで偵察に行  
った。BC から往復で 5 時間ほどかけ、BC に  
帰着した。コルから見上げた頂上への上部ルート  
は、痩せたボロボロの岩稜で危険が多く、登頂  
ルートとしては、採用できないと判断した。

日本人 3 名、栗木 (登攀隊長)、岩瀬 (登攀  
副隊長)、鍛次隊員を含めて「稜線グループ」  
6 名 (ガジェンドラ・デシュムク、テジラム・  
タッカー、マヤンク・シャルマ) は、BC より  
Gapo Ri、から Shaldor Ri (5942m GPS による  
高度) に続く東陵上 (5600m 付近) まで偵察した。

稜線の北側は急峻な雪と氷の壁で、南側は  
ガレの急斜面である。稜線上に前進キャンプ  
を設営すれば登頂は可能と判断し、その後、  
BC に帰着した。

7月3日 全員BCで休養。この日、印藤夫妻は体  
調が悪化し、馬と車を急遽手配し夫婦ともに  
レーに帰った。



Shaldor Ri (5942m) に登頂

7月4日 午前 7 時 50 分、日本人 3 名とイン  
ド人 5 名が BC を出発。日本人 3 名とインド  
人 5 名 (ナムギャル・ネギ、ピウシ・シャルマ  
他 3 名) が High Camp = HC 設営地点に 9 時 5  
5 分に到着した。HC の位置は、7 月 2 日に偵  
察したコル上部である。この時点で雨柱が接  
近してくるのを確認。その後、風雨が強まり  
テントの中で一時間ほど待機し、この日の上  
部偵察は諦めた。その後、荷揚げ要員のイン  
ド人 3 名は BC に下山。テント 2 張りを設営  
し、5600m に日本人 3 名とインド人 2 名が宿  
泊した。

7月5日 前夜から天候が思わしくなく、登頂  
が危ぶまれたが朝までには天候が回復。HC  
を 6 時 30 分に出発。

5 名が安全のためにアンザイレンして進み、  
9 時 5 分に Shaldor Ri (5942m) に登頂した。4  
5 分間頂上において写真撮影などをした。Gapo  
Ri 山頂に続く稜線は急峻で、此れをたどる



Gapori Gl. ガポリ氷河

ことは危険が多いと判断した。西から黒雲が接近し、天候の悪化が予想されたので下山を決断。

11時20分にHCに帰り、テントを撤収し12時10分には下山開始。13時にBCに帰着した。後日判明したことであるが、例年であればこの他方のモンスーン入りは7月15日前後であるが、今年は10日ほど早く、7月4日にモンスーン入りしたということであった。

**7月6日・7日** BCで休養した。

### 7月8日

BCは移動はせず、これまでのBCからDzo Jongo (6211m) 東峰に登ることにし、日本人3名とインド人4名が8時45分に出発。12時10分、Dzo Jongo (6211m) 東峰の東尾根上にHC (5805m) を設営した。この日、午後から風速が強まり天候が悪化。午後2時半ごろから3時40分ごろにかけて雷雲が頭上を通過。それと同時に霰が強烈な勢いでテントに吹き付け、生きた心地がしなかった。夜間には雪が降り積もり、翌朝にはあたり一面銀世界になっていた。



しか Dzo Jongo (6211m) 東峰に登頂 天候の悪化を予想して下山を開始した。

11時40分にHCに帰り、テントを撤収し、HCを12時40分に出発、14時10分に無事、BCに帰着した。

**7月10日** BCで休養した。

**7月11日** BCを撤収して8時10分に出発。来るときと同じキャラバンコースで16時40分に車の終点(Shang Smudo)に到着。迎いの車でレーに向い、19時にラリモーホテルに到着した。



ベースキャンプにて

### 7月9日

明け方まで雪が降り続いていた。天候の回復を1時間ほど待ってHCを7時05分に出発し、Dzo Jongo (6211m) 東峰に9時25分に登頂し、10時40分まで山頂に滞在した。周辺の山々を間近にながめることができた。



コンマル峠にて(カン・ユーセイ山群全景)

#### 注記事項

地名、標高はOlizane Mapによった。Shaldor Riは5780mと記載されているが5942mはGoogleによる実測値である。また、過去のインドの登頂記録を見ると登ったという記録は見当たらない。

## 第6期登山学校スタート

登山学校運営委員会委員長 服田康宏

7月9日(土)、日本山岳会東海支部登山学校はOMCビル4階講堂にて第5期修了式および第6期入校式を開催した。

午前中の修了式では、出席者ひとりずつに修了証書を授与し、最後にクラスごとに記念撮影をおこなうなど和気あいあいとした雰囲気であった。

午後からの第6期入校式では、指導員の紹介の後、クラスごとに分かれてリーダーから運営規約や指導要領、年間スケジュールなどの説明を入念におこなった。

第6期は、Aクラス(旧初級)が3教室で受講生18名、Bクラス(旧中級)が1教室5名の体制である。



夏山気象講座

象」、8月21日に「登山の基礎知識」「装備・夏山編」を開催した。昨年は、8月上旬にまん延防止等重点措置が出され、8～9月の現地講習、机上講習ともに大幅な見直しを強いられた。幸い今期は順調なスタートを切ることができ、胸をなでおろしている。

思い返せば2019年から登山学校の運営は、新型コロナウイルスとの戦いであった。計画の急な変更や中止を余儀なくされた指導員のみなさんは、負担が大きかったと思う。受講生の方々にも申し訳ない気持ちでいっぱいである。今年度は予定通りカリキュラムが消化できることを切に願っている。



第5期修了式にて証書授与

受講生23名のうち、前期からの継続は9名、新人14名。新人の内訳は支部員・支部友員が8名、まったくの新規である夏山フェスタや支部ホームページからの応募者が6名であった。新規受講生の中には、かなり山の経験を積まれている方もいたが、昨年同様「基礎をしっかりと学ぶ」学校方針のもと、初年度は全員Aクラスを受講していただくことにした。

カリキュラムは8月から本格的に始動した。現地講習は、受講生の体力確認を兼ねてAクラスが燕山、猿投山、Bクラスは小秀山で実施。机上講習は7月9日入校式の後に「夏山の気



夏山装備講座

## 2022年度(第6期) Aクラス カリキュラム

日程	(I)行事・机上講習	(II)現地講習
7月 (I)9日(土)	第6期入校式 机上講習 【夏山の気象】	
8月 (I)21日(日) (II)28日(日)	机上講習 【登山の基礎知識】 【装備 夏山編】	山の歩き方を学ぶ 猿投山・母袋烏帽子岳など
9月 (I)10日(土) (II)11日(日)	机上講習 【読図 基礎編】 【山岳遭難の現実】	読図訓練① 鳩吹山・岩籠山など
10月 (I)1日(土) (II)8日(土)・9日(日)	机上講習 【読図 実践編】	朝明ミーティング 鈴鹿の山
11月 (II)13日(日)		読図訓練② 小津権現山・宮指路岳など
12月 (I)4日(日) (II)11日(日)	机上講習 【装備 冬山編】	読図訓練③ 鷹ノ巣山・烏帽子岳など
1月 (II)15日(日)		雪上歩行① 入道ヶ岳・賤ヶ岳など
2月 (II)12日(日)		雪上歩行② 藤原岳・高賀山など
3月 (I)4日(土) (II)日程調整中	机上講習 【春山の気象】	雪上(残雪)歩行③ 山城調整中
4月 (II)日程調整中		長時間歩行① 山城調整中
5月 (II)日程調整中		長時間歩行② 山城調整中
6月 (II)日程調整中		受講生企画
7月8日(土)	第6期修了式	

\*現地講習の「山」は過去の実績で、あくまで「例」です。

\*行事・机上講習および現地講習の日程



## 山岳古道調査活動の報告(2)

支部古道調査委員会委員長 西山秀夫

先号の八風街道の調査の八風峠からの続きを報告する。

近江側のパーティを待った。霧と強風で安楽な気がしない。それでも軽い中食と飲み物を飲んで休んだ。峠周辺はシロヤシオの林であった。待っても中々来ないから大声でコールして見た。くる気配はしなかった。1時間後に道中で会うことにして下山を開始した。

県境から鞍部に下ると八風谷の道標があった。ここはもの凄く寒かった。こここそ本当の峠(鞍部)なので風を集めるからだ。合羽を着こんで置いて良かった。誰かが低体温症になるぞ、と警告している。本当だ。こんなところで60歳代から70歳代のおじさんおばさんが低温で倒れたら、だから言わんこっちゃない、と散々叩かれるだろう。

少し下った辺りで近江側と合流できた。ほっとした。伊勢側の運転者は戻り、近江側の運転者も八風峠は初めてゆえに頂上を踏みに行った。

近江側も伊勢側と同様の風化花崗岩の崩れやすい地質だった。崩れやすく滑りやすい路肩に留意しながらゆっくり下った。ある程度まで来たら運転者が戻ってきた。下るにつれて溪相も安定し、沢登りしたくなるような美しい溪谷になった。

杉の植林帯に入ると踏み跡も安定してきた。道も平坦になり、歩きやすくなる。旧跡というものは見当たらなかった。広い氾濫川原が見えた。砂防堰堤で河原が広がったらしい。対岸へ渡渉するところがあったが、右岸の破線路が街道だろうと、廃道同然の破線路にしたがった。踏み跡は殆どないが迷うと現れるから不思議だ。路肩が崩壊しているところもあるし、倒木もあるしで難路である。とかく谷沿いの山道は壊れやすい。

舗装道路へ出た時はほっとした。確かにこの辺りは分かりにくい。歴史の古道として整備することはないのだろう。八風谷橋でR421のPに着いた。石樽トンネルはすぐ右だ。峠を越えていた時代には想像もつかないくらいのクルマが往来している。しかもすごいスピードである。



巻き道の崩壊したところを行く

八風街道はわずかに残された歴史の断片である。

### ③ 尾鷲道 2022.0521～5.22

参加者：鈴木慎吾、吉田和夫、井波、佐原、山田、武内、西山の8名

朝7時金山を出発。7人のメンバー。目的地は台高山脈の一角。海山ICを出て水無峠に向かう。今日の出発が遅いので栃山で足慣らしだ。2005年出版のJAC100周年記念出版で『新日本山岳誌』(ナカニシヤ出版)にとり上げるために登って以来である。

以前はなかった登山口の道標があるほかは登山道は不明瞭なままである。その時は冬場なので、葉の茂りはなく左に太平洋が見えたと思うが、今は緑の樹林の中を歩くのみ。山頂もまったく記憶にないので初めての登山と同じ。今日は往路を戻った。時間があれば西へ下り、林道を経由で下山する予定だったが敵わなかった。

ヤママップには栃山の北に登り40分の新しい赤線が付いたので探ってみたが道の痕跡はなく、ヤブを歩いた人がいるのだろう。これは使えないから水無峠に戻った。

下山後は本来の尾鷲道だった古和谷の林道の入り口をチェックしたが道標はない。昔の登山者はここから稜線に登り大台ヶ原山を目指した。私も紀勢本線に夜行列車があった頃(昭和59年に名古屋発の夜行は廃止)、ここから登山計画を立てたが、夢想登山に終わった。

五万図「尾鷲」を比較すると昭和44年測量同49年修正版はまだ破線路で、平成7年修正版とでは地蔵峠付近までの約12km林道が開通していた。破線路の時代は松浦武四郎、今西錦司(初登山—今西錦司初期山岳著作集 単行本 - 1994/4/1)も木津に下山したという。松浦武四郎 木津でググると、林道を忠実に歩いたのではなく、後谷に沿う道だった。NTRCの道標はその案内だったのか。そして海山に出て、馬越峠を経て尾鷲に下ったものもあるし、武四郎は引本港から船で帰った。平成7年の地図には2002. 5. 26に登り45分のメモがある。今日は80歳も含めて高齢者グループ7名なので70分かかった。

古和谷のチェック後はR425を走り、坂下トンネルを通過、尾鷲市の市街地に。

### 「山帰来 アルベルグ」の川端 守氏を訪ねる

栲山下山後は、熊野古道の馬越峠直下のウッドハウス「山帰来アルベルグ」に寄った。アルベルグはスペイン語で民宿の意味とか。今はコロナで休業中。元日本山岳会員の川端守氏と奥様がいつも変わらぬ笑顔でおもてなしいたいた。目的は今年4月まで熊野古道センターの長だったことで古道に関するレクチャーを受けたいとお願いしておいたのだ。尾鷲高校の元国語教員で名古屋の風媒社から熊野古道の著書を4冊くらいは出しておられる。2018年には同じ風媒社から『東紀州の山々』を上梓。1941年生まれの川端氏は当時77歳にしてエネルギー活動ぶりに驚かされた。2005年発刊『新日本山岳誌』の取材(1997年~2005年)では、JACの会員(10年くらい在籍)になって協力していただいた。私は東海支部の編集者として誰も手を挙げない南紀と東紀州の山々を踏査して寄稿した。

熊野古道は断片的な山岳部分のみ残るがスペインの古道は長く、整備もされているそう。一日20km歩き、40日間アルベルグに泊まりながらご夫婦で歩かれたという。日本人の旅行者は珍しかったという。

余談だが、俳人の黛まどか氏(1961年~)も熊野古道歩きの途次この素泊まりの宿に泊まれた。美人の俳人ということで角川が売り込むためにか、特別賞を授与して話題になった人。

旅終へてよりB面の夏休 黛まどか

川端氏と黛氏を結ぶのはスペインの古道歩きだった。『星の旅人 スペイン「奥の細道」』(角川文庫)という本も上梓するほどのめり込んだ。女性の身でよく歩かれたものである。古道に俳句にと話題は尽きないが、宿でのこともありおいとました。

東西の古道の話の後は「イワナの里」という民宿に投宿。紀伊山地の山懐に張り付いた山宿だ。イワナ御膳に舌鼓を打った。川魚料理、山菜のてんぷら、海の魚の刺身など盛り沢山の料理に驚嘆した。

### 木組峠往復

5月22日尾鷲市の宿を朝7時に出発。再び水無峠を目指す。林道終点まで乗り入れP。ジムニーの先客あり。しばらくは林道歩き後、切通しで残されたような場所にある地蔵さんのあるところへ登る。

林道へ戻り、地蔵峠の道標から非常階段みたいな急坂を登り稜線に急登した。すると散策路のように気持ちの良い山路になった。尾鷲道の古和谷分岐から又口辻、山腹のう回路を歩く。2017年12月は冬だから枯れていた神明水には今回も水を得られなかった。新木組峠に着く。ここから尾根通しに登り稜線分岐から光山への道が分かれる。木組峠に下った。すると2人パーティに出会い情報ももらう。

NTRCのテープは青は松浦武四郎の通った道、オレンジは尾鷲道と使い分けしていると聞いた。

木組峠口まで下って、尾鷲道の旧道を探す。蛇抜けの谷に下るロープ(NTRC整備)を伝って谷芯に降りた。対岸へは踏み跡を探して攀じ登った。着いたところはブナの平らな素敵



ブナの緑陰の木組峠

なところだった。後続の6人は少し戻って浅い谷上部を渡った。平まで下って何となく踏み跡をたどると尾鷲道がしっかりしてきた。NT RCの道標では高リスクとあったが、ついに蛇抜けのところに遭遇した。ここもロープがあって安全に対策してあった。80歳の高齢者もいるので恐る恐る見守ったが無事に通過。次もその次も無難に通過できた。すぐに新木組峠だった。

ここから1297mの三角点西原（中の嶺）を踏んで行く。ピークは展望の良い細又谷の頭1305m峰、シロヤシオに包まれた西原（中の嶺）1297m峰、太平洋側に開けた竜辻山1260m峰のおよそ3ヶ所あり、アップダウンが激しい。これだから山腹のう回路が開削されたのだろう。

かつて、伊勢辻山から大台ヶ原山までツェルトビバーク3泊で縦走したが、山頂を巻くことが多かった。山仕事や生活道路の道としては合理的である。

又口辻の道標を見ると周回の目的を果たす。古和谷分岐から地蔵峠は快調に飛ばす。林道に降り立つとやれやれ感が漂うが、まだ林道歩きが待っていた。

今回の踏査で分かったことは尾鷲道と武四郎の踏破した道は新木組峠までは重なるが、以南はバラバラに分かれて踏破している。バ

イパ的な光山經由水無峠から木津へ下山し、引本港から船で帰った。又口辻から柳ノ谷へ下山、今回分かったのは竜の辻からも下山したことがNT RCの道標で知った。武四郎は尾鷲道の古和谷ルートは歩かなかったのか。また調べ物が増えた。

※NT RCは熊野大杉谷ガイド協会の野中太郎氏の略か。

### 課題として

文献調査では古和谷ルートが尾鷲道である。そもそも尾鷲道は大台教会（教祖は古川崇）への巡礼の登拝の道だったのだ。次回は大台ヶ原の尾鷲辻から古和谷を経て尾鷲駅まで約13時間かかる。但し、GPSの記録としては尾鷲辻から木組峠間を往復すること、古和谷未踏部分の往復でも良い。いずれもヤブではなく道標がある。

尾鷲道以前からの武四郎も歩いた木津道も踏破したい。木津へ下れば海に近い町に出られる。武四郎は引本港から船で伊勢に帰っらしい。京都の今西錦司も木津へ下ったが、紀勢線で伊勢に出て、参宮線で関西線の亀山駅から奈良經由で京都へ回るのも相当な道程がある。時間があれば老舗の又口辻のルートも歩いて見たい。

以上、尾鷲道も巡礼の新道は崩壊しつつあること、旧尾鷲道は険しいことが判明した。

## メルマガに登録してください

デジタルメディア委員会が YouTube に東海支部のチャンネルを作成しました



## 山書蒐集夜話（その2）

支部員 安藤忠夫

### 初めて入手した特装本

本に触れることの好きだった私が、山書を手にするようになったのは20歳代前半からである。登山を始めたばかりで、初めは山に登るための案内書や技術書などの実用的なものばかりだった。ほかに購入したものといえば、あかね書房の日本山岳名著全集、世界山岳名著全集とか、角川書店のエーデルワイスシリーズなどの全集ものだった。

単行本に興味がなかったわけではない。ときどき購うこともあったがそんなことは希で、多くは代金の工面ができなかった。若いころは本の購入資金を捻出することが容易ではない。毎日の生活費のほかに、山に登る旅費やら装備を買うための資金が要った。それだけで給料の大半が消えたし、ときには仕事に必要な専門書も求めねばならない。

そのうえ、山書は、他の文学書に比べて高価だったからなおさら買えなかった。ほんとうに欲しかった山の紀行集や随筆集は、いきおい後回しにしていた。

そんな折り、1966年9月に茗溪堂から『森林・草原・氷河』が出版された。A5判446頁、佐藤久一郎のカットで、定価1500円だった。著者の加藤泰安は伊予大洲六万石の城主の直裔（ちよくえい）である。内蒙古、マナスル、チョゴリザ、サルトロ・カンリー、ニューギニア中央高地などの紀行と、折々に記されたエッセイによって編集されたものだ。内容豊かな山書でずっしりと重みがあって、当時の若い登山者のだれもが憧れていた外国遠征の記述が大半である。これは一も二もなく手に入れて、胸をおどらせながら繰り返し読んだ。

1970年秋のことである。仕事に就いて数年たっていた。すでにいくらか安定した収入も得ていたし、山書のために手ごろなお金を回すことができるようになっていた。少しずつだったが古書店巡りをして、山書の蒐集を始めていた。勿論、特装本にも興味はあったが、その代金で何冊もの山の本が買えると思うと、おいそれとは手を出さず気になれなかった。



加藤泰安著『森林 草原 氷河』  
左・限定 300 部本、右・再版限定 150 部本

名古屋の栄町、松坂屋前に人生書房という小さな古本屋があった。今はない松本書店の南側で、さらに一軒おいた隣に東文堂古書部もあった。そんな栄町界隈の古本屋を一軒ずつ回っていたときのこと。

予想どおり人生書房の棚にはめぼしい山書はなかった。念のために奥さんとおぼしき店番の人に、山の本を探しているのですが、と声をかけてみた。すると、おもむろに席を立てて奥へ行き、こんな本がありますよ、と見せられたものが『森林・草原・氷河』の特装本だった。普及本と同じ年の11月発行、300部限定で、定価3000円のものである。

私にはまだ特装本の成り立ちも、価値も理解できないでいた時だった。が、内容のよさは熟知していたし、背に革を使い、臙脂（えんじゅ）色の布をヒラとし、記番署名入りであったことに魅入られて、衝動的に買った。大枚8600円を払ったが、これが私が入手した特装本の第1号である。

その後のこと、著者に一度だけお目にかかったことがある。1972年6月のウエストーン祭の翌日、私は岳沢を上高地に向かって下っていた。河童橋からほど遠くない森林帯まで来たとき、ご家族同伴の散策途中だった著者と出会った。当時すでに脚がご不自由のところで、片手にステッキをつき、初夏の上高地をゆったりと楽しんでいたようだった。行き違った私に、山の様子を二言、三言たずねられた。私は突然の問い掛けに緊張しながら応えたことを思い出す。なお、著者は1983年4月に72歳で逝去されている。

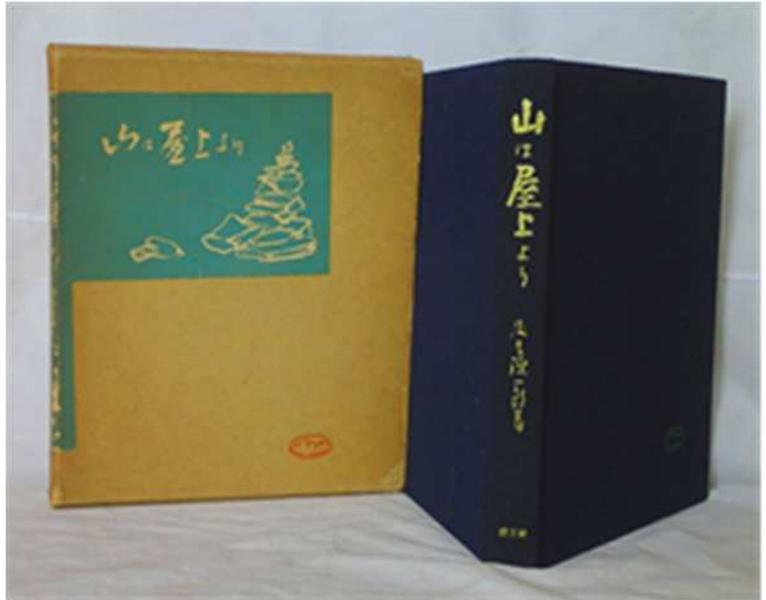
ところで、この『森林・草原・氷河』には1976年6月の第2版発行時にも、150部限定、角背、天金、背革装、ヒラに薄茶色の緞子(どんす)、本文紙に鳥の子紙を用いたものが、定価15000円で売り出された。

このころになると、私は少しぐらいの無理をしてでも特装本を買うようになっていた。件の山書はすでに初版を所蔵していたので、出版当時は購入を

見合わせていたものの、2版の垢抜けした装丁を見るにつけ、結局、無視できなくなって出版元の茗溪堂で購入した。

ちなみに、この2版の方が評判がいいようで、1989年のある古書目録によれば2版が25000円に対し、先の初版本は18000円の値がついている。ただし2版は、後々になっても版元に数冊の残部があって、発売当時の価格で購入できた。

私は、いつのまにやら『森林・草原・氷河』の初版の特装本2冊と2版の特装本2冊と、最初に購入した普及本の計5冊を所蔵するとこ

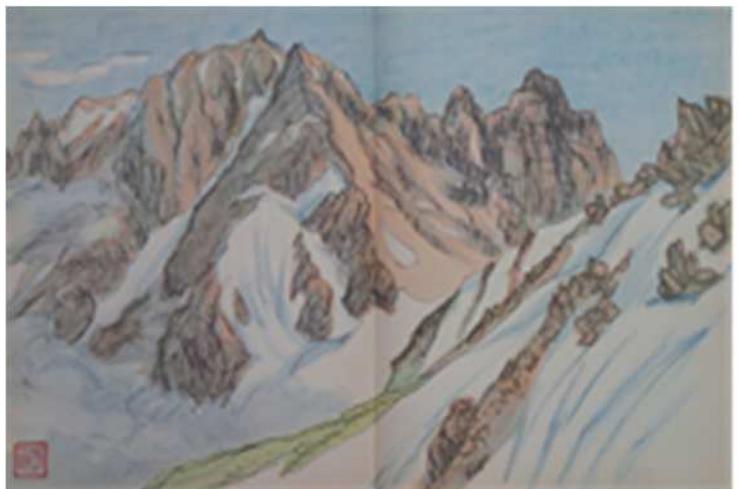


ろとなってしまった。資金が特段にあつたわけではない。書店の棚に格安で並んでいるのを見付けたり、知人から引き取ったりしたことによるものだ。重複して所蔵してはいるが、勿論、これだけは手放す気にはなれないのである。

#### 足立源一郎著『山は屋上より』のこと

2014年の盛夏、名古屋市内で古書店巡りをしていた。相も変わらない倅いで、この街に戻って少しでも暇があれば古書・新刊を問わず書店

足立源一郎著『山は屋上より』



『山は屋上より』所載(64P、65P)、挿入画

回りをすることが多い。購入することはめったにない。が、それでも何がしかの淡い期待をもってほっつき歩いている。古書ならば、毎月開催される即売会のほか、神無月書房、三松堂書店、つたや書店、山星書店、大学堂書店、そして一二三館書店を巡り歩いて、3時間ほどのコースが通例である。

時には掘り出し物に当たることもある。1ヶ月前は、小島烏水の『偃松の匂ひ』を格安で手に入れた。その前は『永井荷風随筆集』全五巻が1500円の札。今しがた倉庫から出てきたばかりのような真新しいものだった。今回はその同じ棚に『山は屋上より』が並んでいた。言わずと知れた足立源一郎の手になるもの。『山に描く』、『日本の山旅』などと共に、画伯の代表的な画文集である。なのに、こともあろうに1000円也と表示されていた。函の背にいくらか焼けが見られるものの本体は何処も傷んでいない。一瞬目を疑ってしまった。と云うのも、30年ほど前になるが、神田の悠久堂で大枚1900円をはたいて、やっと手に入れた本だからである。

私は足立さんのファンである。40年近くも前のことだが「モンブラン シャモニー針峰群」と題する油彩画を手に入れ、さらに先頃、「岩木山」、「八ヶ岳新雪」と題する油彩画二葉も衝動買いをした。どれも気に入っている。

ついでに触れておくと、足立さんは現場制作を標榜されてきた山岳画家である。やっぱり現地で描いた作品は、人を惹き付ける力があると思う。ただ、所蔵する三葉とも、別に同一名の画が存在する。とは云え、それらが載る目録を観るかぎりにおいて、私が所持している画の方が格段に見映えがする。臍頂目ではない。大筋同じような構図ながら、サイズも大きく、鑑賞者の目を意識した構図に直されている。思うに、足立さんと云えども、ご自身の作品を人手に渡したり展示会に出品する時は、現場で描いた画をもとに、アトリエで改めて描き直されていたのだろう、と思われる。

じつは、今から50年ほど前の1973年のこと、この本の複製本(海賊本)を作ったことがある。自分用に1冊だけである。この事について、当時編集を担当した『山書好日』なる書籍で「一冊の複製本 - 『山は屋上より』」と題して、次

のように記した。

「職場の同僚に山田 穂(みのる)という人がいた。私より15~6才は年上で、一度か二度は山へご一緒した記憶がある。ある日その人が、こんな本を知っているかい、と言って1冊の本を見せていただいた。『山は屋上より』だった。自分の身近に、これまで見たことのない山書を持っている人がいた、という事が驚きであった。いずれにしても実物を手にするのは初めてで、幾らか大振りの菊判、布装藍色表紙で、想像以上に魅力的な本だった。一段と光彩を放つ画文集だった、譲ってほしいとひそかに思った。勿論、東京あたりの古書店でこの本がごく一般的に出回っていることを知らずにいたころである。

それから何日か過ぎて、件の山書を借り出し、こっそりコピーをした。一冊分すべてである。数葉の彩色画は現物に似せて色づけをし、製本に回した。そして返却した。ご本人には気付かれないように作業を進めたつもりだったが、借りた本を返す段になっていくらか傷みがひどくなってしまったように思えた。ご本人も、私がコピーしたことに気付かれたであろう。が、一言もそれには触れられなかった。……、その本を見るたびに、本に触れるたびに、何か後ろめたい、ほろ苦い思いを抱くのである。今も、いくらかの罪の意識を引きずっている」と。その10年後に、改めてオリジナル本を悠久堂から購入したわけである。で、今回そんな駆け出しの山書蒐めの頃の、篤い思いが蘇ってきて、店ざらしになること忍びがたく、重複を承知で引き取ることにした。

自宅に戻り、念のために過去の古書店発行の目録によって、『山は屋上より』の頒価の推移を調べてみた。すると、1985~1990年頃までは18000円、2003~05年になると12000円、さらにその後値下がりがつづいて、ここ数年は1500~1000円とあるではないか。特段に安価だったわけではない。山書としての価値は無に等しくなっていた。

近ごろの山の本の値下がりには目を覆いたくなるほどだ。残念ながら、足立源一郎さんは、美術年鑑には物故洋画家として載ってはいるが、今では、忘れられてしまった山岳画家の一人と云っても過言ではないようだ。





## 東海支部の蔵書からの一冊③

図書委員長 石田文男

### 『山をよむ』 著者：斎藤一男

《ヒマラヤ、アルプス、冬の穂高、・・・。  
高峰と困難を求めた登山の中から、幾多の名  
著が生まれた。歴大な山の情報・文献から選  
りすぐった百冊の本。

・・・ところでこの本は、こうした情報化  
時代に良質な情報を提供する目的で、多種多  
様な分野を網羅した「情報シリーズ」の中  
の一つとして生まれたものなのである。題して  
「山をよむ」という。

すぐれた人たちの多くはすぐれた本を何冊  
とはなしに読んでいます。人はそれらの本をよく咀嚼し、自分の骨となし、血となして大きく成長していくものなのである。私たち登山する者も山に関したもろもろの文献の中から、豊かで役立つものをいくつも引き出し、しっかり身につけながら山登りをより楽しく、逞しく実のあるものにすることができる》。  
以上、私の言いたい〈山岳書にふれ易い・あるいは理解度を高める〉ために、少し長い引用になった。

この「はじめに」の一文には説得と納得をさせられたものだ。この中には支部蔵書紹介の筆者の思いを端的に語ってくれているものも多い。支部の蔵書群に触れる時の一つの目安にもなる。

「・・・あくまでも〈高み〉への一つのステップに過ぎない。一冊の本の中からできるだけ多くのことを知ろうと思っても、それには限度があり、時代と人によって一様ではない。・・・『主要山岳関係図書』の選び方や捉え方は執筆者の好みによって違おうし、受け取り方もまちまちであろう。つまり、これが正しい、これが間違いという算式自体を問題視する以前に、情報を伝達する有力な方法として〈本〉を読んで理解し、それをまた一つのステップとして次へ向かうことが、本当の意味《山》を知ることになるのではなかろうか。この本もまた、その一つにほかならない（『高みへのステップ』文部省一指導者養成



のためのテキスト—)」から。

巻末の「主要文献リスト」に胸が躍る。9頁にわたって挙げられている167冊のどれもに食指が動く。書名・著者・発行年・発行所・判型が正確に具に判るのもいい。この中

には見慣れ親しんできたものも多い。だが、その多くは入手時に目次に目をやり、一読した〈はじめに・あとがき〉とパラパラと頁を繰って概略を掴み、後は必要に応じて読みたい時にじっくり読めば良いんだと。こんな積読だけの本に今一度、じっくり当たりたい。

本書は9章から成になっている。ただ、目次には章番・篇の連番は付されていない。が、以下の構成になっている。

「山岳論・山岳研究」：13篇

「登山小史」：7篇

「登山技術」：10篇

「アルプス」：11篇

「ヒマラヤ」：15篇

「紀行・随筆」：21篇

「案内・遺稿」：12篇

「雑誌」7篇、「主要文献リスト」

〈山好きは早晩期するところは執筆狂たらざるえない〉・・・。山を遊びや趣味と眺めようともスポーツとみようともそのことは自由であるが、山好きに共通した性癖として執筆癖と読書癖があるようである。

本離れと言われて久しいが、やはり山登りには読本は欠かせないもの。とくに山岳書に

浅学ながら取り組もうとする人には、ぜひ奨めたいのが本書である。ここに挙げられている全ての書には副題と言っていい概略の説が意欲を掻き立ててきて、そのどれもに終引き込まれているのを忘れてしまうのだ。

- ・明治大正期山岳文献の金字塔—『日本アルプス・全4巻』（小島烏水）
- ・今日なお読みつがれる山の文学—『山—研究と随想』（大島亮吉）
- ・秘境黒部の岸壁群に日本の山を探る—『黒部別山』（黒部の衆）
- ・技術や道具に捉われず山の全体を把握する技術書—『積雪季登山』（勝田甫）
- ・代表的岩場のルート図グレードで説明—『日本の岩場—グレードとルート図集』（第二次RCC）
- ・より楽しく、より安全に登山を楽しむための道具—『用具と技術』（岳人編集部）
- ・ヨーロッパ三大北壁征服の物語—『アルプ

ス三つの壁』（アンデルル・ヘックマイヤー、長越茂雄訳）

- ・恐怖、疑惑、歓喜に揺れ動く生きた人間の記録—『エヴェレスト—その人間的記録』（Wノイス、浦松佐味太郎訳）
  - ・言語に絶する苦闘のナンガ・パルバット単独登頂記—『八千米の上と下』（ヘルマン・ブール、横川文雄訳）・・・
- これもまた数篇のつもりが挙げはじめたら切りがないのだが、まずはこの副題に惹かれてその解説を読めば、その書に興味を持てる否か。

山に登るならまずは本に接したい。本は苦手だと自認している人は何かのきっかけを捉えてほしい。この本は山岳の入門書にもなり、知識・認識の再習得の書にもなる。

まずは、「山書・支部の蔵書」に手をのぼすところからはじまる。

## TOPICS 1

### 沖評議員 ヒマラヤンクラブ訪問

東海支部のインド・ヒマラヤ登山が成功裏に終わり、デリーに帰って、日本に帰る隊員を送り出した後に、筆者は、「インド・ヒマラヤ」英語版の海外への紹介や頒布などの方法を相談するため、ムンバイの Himalayan Club Office を訪ね、また、「インド・ヒマラヤ」英語版のインド人編集者の Harish Kapadia さんをムンバイの自宅に訪ねた。快く協力をしてもらえることになった。Harish さんは、Himalayan Journal (最新号は Vol. 76, 2021 年) の編集長を長い間務め、登頂した山は 33 座でそのうち 21 座が初登頂という輝かしい登山歴があり、また、Patron's Medal of the Royal Geographical Society (イギリス) など権威ある賞を幾つも受賞しているインド・ヒマラヤの世界的権威である。たまたま、前会長の Ms. Nandini Purandare さん (現 Himalayan Journal の編集長) も同席して、インド・ヒマラヤのことで昼食を挟んで終日歓談した。



日本山岳会の名誉会員 ハリッシュ・カパディア氏

後日、Himalayan Club の出版賞「Kekoo Naoroji Book Award」を「インド・ヒマラヤ」英語版にいただけることが内定 (受賞式は 2023 年) したと連絡があった。(沖 允人)

## TOPICS 2

### 草野駿希君 北アを爆走中!!

支部員の草野駿希君(23)が、先月9月19日日本海の親不知海岸を出発。梅池新道から、1ヶ月かけて北ア全山の縦走に挑戦中。計画では、10月18日に乗鞍岳畳平に下山予定。

この間、主要なピーク31座を単独でノンストップ、ノンサポート(水のみ一部の小屋で補給)、オールテント泊で踏破しようというもの。今時の若者にしては、いい根性していると支部のオジサン達感心仕切り。

草野君は、大同大山岳部OBで、今春卒業と同時に東海支部に入会、青年部に所属。在学中は、東海学生山岳連盟で活躍。支部の若手のホープとして期待されている。

ちなみに、本号発行日の10月1日は、予定では丁度“剣岳”を通過中。無事終了の暁には、途中のエピソードなどを交えた道中記を寄稿してもらうことになっている。支部関係各位こぞって草野君の挑戦にエールを送ろう。(編集委員)



9月19日日本海親不知海岸を出発する草野君(自撮り)

## 会員の広場

### 同好会紹介コーナー

#### スケッチクラブ

村中 征也

#### 《第8回作品展の開催》

2013年7月、東海支部の同好会として発足、コロナウィルス禍等多々ありましたが、10年目を迎えることが出来ました。

四季のスケッチ旅行は、登山とは一味違った交友の機会を与えてくれます。同好の環境に身を置くことで、相互の研鑽と親睦が図れ、作品展は大切な位置付けです。

第8回を、下記の通り開催します。

期間：11月9日(火)～13日(日)

時間：9:30～16:30

\*11月9日は13:00から

\*11月13日は15:00まで

会場：名古屋市市政資料館第5展示室  
名古屋市東区白壁1-3

交通：地下鉄名城線「市役所」駅  
2番出口を東へ徒歩8分

毎回、東海支部の皆さんに大勢お越し頂き、登山の思い出を交えた語らいが彩りを添えてくれました。

今回も、山の絵の他、多彩な作品を準備しておりますので、お誘い合せでのご来観をお待ち



会場で来館者との語らい

しております。

#### 《活動報告》

##### 鳳来峡スケッチ

8月31日新城市湯谷温泉・鳳来峡へのスケッチは、荒天の予報で中止。

##### 飛鳥路スケッチ

10月25日～26日1泊2日で、奈良県明日香村へスケッチ旅行し、風物・遺跡・石像・古寺を訪ねます。

代表：石井 仁

事務局：村中 征也・岩田 智与子

## 回想の登頂記 ④ エルブルース

支部員 杉浦吉治

「着いた！ここが頂上だ！キツかったな！」  
2003年7月31日午前10時15分ヨーロッパ大陸最高峰エルブルース西峰（主峰5,642m）の登頂に成功した。



エルブルース（主峰の西峰）頂上にて

ガラバシ小屋(3,800m)を出発したのが深夜2時、雪上車を利用しながらもなんと8時間15分を要した。

\*

＜登頂の動機＞ エルブルースがヨーロッパ大陸の最高峰であることは、アフリカ大陸最高峰のキリマンジャロ(5,895m)に登るまで知らなかった。それまでは、ヨーロッパ・アルプスの最高峰であるモン・ブラン(4,807m)がヨーロッパの最高峰だと思っていた。しかし、これを知ってからは、何としてもエルブルースに登頂したいと思いつけていた。

幸いなことに、アトラストレックがエルブルース登山の募集をしていることを知ったので、すぐ夫婦で申し込んだ。

事前に資料を調べていると、エルブルースは、黒海とカスピ海の間にある、カフカス（コーカサス）山脈の北部に位置することが分かった。未知の山域であるヨーロッパとアジアの境目であることは非常にわくわくする。

最初に読んだ資料は、『カフカスの山旅』（袋一平著、1968年、あかね書房）である。読んでいるうちに胸の高鳴りを覚えた。しかし、コーカサスは「戦争と平和の狭間にある地域」（『コーカサス』富樫耕介著）であることを考えると、少々不安を感じたのも事実である。こ

の地域のことはあまりメディアでは紹介されていなかったからだ。

＜1日目＞ さて、出発は7月26日成田からだ。ところが、一昨年のNY同時多発テロ以来、所持品のチェックが大変厳しく、それ以前は機内持ち込み可であったピッケルやストックは機長預けとなった。急いで仲間の道具と合わせて、これらをパッキングして預けることとなった。

やっとの思いで、フライトは13分の遅れで、12時にはアエロフロート・ロシア国際航空の人となった。モスクワとの時差は5時間。機内で2回の食事が出されたが、2回とも予想していたより満足できるものであった。

約10時間のフライトで、初めてのモスクワのシェレメチェボ国際空港へ無事到着した。

ここから都心まで僅か9名の日本人のために超大型バスでロシア・ホテル（現在は建て替えられている）へ。途中、宇宙飛行士ガガーリンが学んだ士官学校、モスクワ駅、プシキン広場、ポリショイ劇場、さらに旧KGB（ソ連国家保安委員会）などの建造物のバカでかいこと！

ホテルの窓からはクレムリンの珍しい建物が勢ぞろいしている。これがロシア・モスクワか、と驚くこと頻り。

＜2日目＞ 翌日、モスクワから国際線でカフカスのミン・ボディへ。着陸後、記念にと思い乗ってきた航空機の写真を撮っていたら、警備員に阻止された。ここから現地ガイドと共に約300kmの道のりを車でエルブルースの登山基地テレスコルへ。途中、左の車窓には日本では見たこともない地平線まで広がる美しいヒマワリ畑が、右の車窓からはレーニン（スターリンではない）の銅像や軍の駐屯地が何箇所も目に付いた。この地域は、紛争地チェチェンが近くにあり緊張感が走る。

やかに、登山基地にははまはずのホテルとは名ばかりのロッジ風の宿に着く。われわれの他に韓国からの賑やかな2パーティがいた。

＜3日目＞ 翌早朝に散歩をすると、いつの戦

いの遺物か、砲台を載せた車両の残骸が放置してあり、今までの登山基地とは雰囲気が異なっていることを気づかされた。朝食後、キャビンとリフトを乗り継いで、樽(ボチキ)型の標高3,800mのガラバシ小屋へ高所順応のためゆっくり過ごし、再びホテルへ。

**<4日目>** 昨日、高所順応を行ったガラバシ小屋へ。ここから、氷河上を徒歩で11番小屋(4,157m)を往復する。以前は、この11番小屋で宿泊できたそうだが、今は廃墟同然である。しかし、それでもここを宿代わりにしているのかシユラフに身を包んでいる登山者もいた。

**<5日目>** ガラバシ小屋からパスツーフ岩(4,700m)まで高所順応のため氷河上を往復する。この高度で、朝7時から13時40分までの休憩を挟んで7時間弱の急傾斜の雪上歩行はかなり厳しかった。

**<6日目、登頂日>** 深夜2時、降雪の中、小屋を出発。運よく雪上車をパスツーフ岩近くまで利用できることになった。



朝日に輝くドングスオルン 東峰直下より

パスツーフ岩へ着いたときには雪は小降りになったが、空はまだヘッドランプに頼らねばならない漆黒の闇だ。雪上車を利用して楽をした分、歩き始めた途端に急斜面の氷河の登高は睡眠不足の身には応えた。1時間ほど登り休憩をとる。

次第に傾斜がきつくなり、呼吸を整えて必死に登高を続ける。東峰(5,621m)の下部をトラバース中に、やっと空がうっすらと明るくなってきた。すると、朝日に輝くドングスオルン(4,

454m)の雄姿を眼下に、左遠方(南西)に目をやれば、雲海から双耳峰のウシュバ(主峰4,719m)が頭を見せてくれた。何と素晴らしい眺望か！これまでの疲れが吹き飛んだ。



ウシュバ(左上)遠望 コル上部より

西峰と東峰の間のサドル(鞍部5,300m)でひと休み。すばらしい眺望である。さあ、ここからは西峰へのキツイ登りが待っている。5,000mを越える、しかも陽が昇り出して緩みだした急傾斜の雪上の登高はやはり苦しい。

最後の急斜面を登りきり、10時15分やっと頂上へ到達！一息入れてから、ガイドと記念写真を撮影。ここから眺める東峰も見事な山容を呈している。



エルブルース東峰(5,621m)の雄姿

ここで心ゆくまで写真撮影を楽しんだ後、いよいよ下山開始。登りと異なり体は楽だが、緩んできた雪は実に歩きにくい。特に急斜面は、体が前へのめり込み何度転んだことか。遥かかなたにガラバシ小屋が見えるが、どれだけ下ってもなかなか近づかない。途中、雪上車が迎えに来てくれると聞いたが、どうも話がうまくついてなかったようだ。それを耳にした途端に疲れがどっと出てきて、もう歩く元気がなくなりそこへ座り込んでしまった。しかし、思い直

しここでアイゼンを外して滑るようにして(というより転がるように)必死で下山した。

やっとの思いで、15時8分に無事ガラバシ小屋へ帰着した。何と、出発してから13時間8分だ。

夕食は、ウオッカで登頂成功を祝い乾杯、といってもとてもこの強い酒を飲み干すことは出来なかった。また、この小屋独特?の直径20cm程もあるボールのようなバカでかい食器に山盛りの食事だ。とても味は良いのに、疲れがひどく、完食とはいかなかった。美人のコックさんに申し訳なかった。



早朝のエルブルース（左が主峰） ポチキ小屋付近より



入選作 『凜呼ウシュバ』 ガラバシ小屋付近より

<7日目> 遅い朝食時までは自由時間。早朝起床し、4台（中版、35mm判、それぞれ2台）のカメラで撮影三昧の時間を楽しんだ。この時の1点が、前年入会した「日本山岳写真協会」の全国展に入選した。審査の講評が機関誌に掲載され、うれしく、また誇らしい思いをした。

<8日目> この日は、登頂予備日を利用して、エルブルースの西側にあるチゲット山へハイキングだ。ここからバクサン谷越しに仰ぐエルブルースは実に雄大だ。また、このチゲット山は高山植物の宝庫で美しい何種類もの花々が咲き誇っていた。勿論、ここでも撮影を心ゆくまで楽しんだ。

\*

<帰国の途へ> 翌9日目から3日間かけて、復路は往路と同じ経路で、11日間のエルブルース登山の旅を無事終えて成田へ帰着した。



エルブルース（左が主峰の西峰）チゲット山より  
しかし、旧ソ連崩壊後もこの地域でロシアがチェチェンやグルジア（現ジョージア）と紛争を起こし、また現在もウクライナに侵攻していることに驚き心を痛めている。そして、この美しいカフカス山脈を有する東ヨーロッパに、一日も早く平穏な日が戻ることを心底より祈っている。

\*

<追記> 山名「ウシュバ」については、JAC月報『山』2020年10月号P. 8~9に「『1968年ウシュバ峰の夏』に感動と歓声」と題して投稿した拙文が掲載されているので、ご一読を願いたい。



挿絵 安藤忠夫

## せっかくのザック 背負い心地が悪くありませんか？

装備委員会委員長 千葉泰文

どうしても行きかう登山者さんの装備に目が行ってしまいます。その中で、目立つ順番は一番にファッション、2番目にザック、3番目に登山靴ですが、そんな中でよくあることなのですが、いいよとは言われてもいないのに口出しをしなきゃと思ってしまうのがザックの調整です。最近の街中の多くのザックを背負っている方々のショルダーベルトを長くして自分のお尻近くまで下げって背負ったスタイルの登山者はさすがに多くはいません。ですが、そんな背負い方では肩が凝りませんか？とか、荷重が腰の部分にかかりにくくなっていて、せっかくいいザックを背負っているのに背負い心地の良さを半減させてしまっていますよ、体力の消費を増大させていますよ、などと思う方が多いのです。

最近売られている登山用ザックはどれもバランスが優れた設計になっています。そして過重の体へのかかり方がうまい具合に分散されるようになっていて、何時間背負っても体の一部への負担が無い設計になっています。そんなザックですがパッキングの悪さや体へのフィットの調整の仕方が理想通りではないためにザックを背負った見た目が悪くなっています。このように調整するともっと楽になるのに、と思ってしまう。

良い調整の第一歩は、まず初めにウェストベルトが腰骨の位置にセッティングされているか、ベルトがきつ過ぎない程度にきっちり締め



ているかになります。荷重の大部分が腰で請け負う様に設計されていますのでこのことがきちんとなされるとこれだけで大分楽なはずです。さらに、あとは体とザックがガサつかないように各ベルトを適度に締めて緩くないようにだけすれば良い。

もともと背面長のサイズの見積りが良くなかったり、適正に調整することが出来ない場合もありましてこんな場合に口出しをしてしまったから、それを言うとその人に気の毒な思いをさせてしまうという事であったりして、困っている自分があります。快適な登山のために買う時の選択の仕方は大切なのですが、山行時のパッキングと体への調整に気を遣うようにしていただくことがとても大切です。これを読んでいる多くの皆様は出来ていることだと思います。さあ、心のままに楽しく行きましょう。

## 支部友コーナー

### ◆支部友委員会山行計画(令和5年1月～3月分)

※締め切りは山行日の1ヶ月前です。

1月8日(日) ☆

山域：愛岐丘陵 山名：鳩吹山

リーダー：尾上 昇

1月9日(月祝) ☆☆

山域：焼津アルプス 山名：満観峰

リーダー：今津 英一朗

1月14日(土) ☆☆

山域：鈴鹿山脈 山名：入道ヶ岳

リーダー：榊 将美

1月21日(土) ☆

山域：静岡市 山名：薩埵峠～浜石岳

リーダー：倉橋 智司

- 1月22日(日) ☆  
 山域：袋井・掛川市 山名：小笠山  
 リーダー：近藤 政仁
- 1月28日(土) ☆☆☆  
 山域：鈴鹿 山名：御在所岳  
 リーダー：高松 信治
- 1月29日(日) ☆  
 山域：浜名湖西 山名：神石山・座談山  
 リーダー：奥野 明美

- 2月11日(土)☆☆  
 山域：鈴鹿山脈 山名：嶽不動～青岳  
 リーダー：田中 進
- 2月12日(日) ☆☆☆  
 山域：西三河 山名：高根山・折平山  
 リーダー：榊 将美
- 2月18日(土)19日(日)☆☆  
 山域：長野 山名：乗鞍高原・上高地  
 リーダー：金谷 正起
- 2月25日(土) ☆  
 山域：各務原市 山名：切谷坂～権現山  
 リーダー：近藤 政仁
- 2月26日(日) ☆☆☆  
 山域：尾張 山名：春日井三山 縦走  
 リーダー：磯部 隆

- 3月2日(木) ☆  
 山域：三河豊川 山名：本宮山  
 リーダー：田中 進
- 3月4日(土) ☆☆☆  
 山域：鈴鹿山脈 山名：霊仙山  
 リーダー：今津 英一朗
- 3月5日(日) ☆☆☆  
 山域：奥三河/玉滝 山名：天下峰  
 リーダー：榊 将美
- 3月18日(土) ☆☆☆  
 山域：奥三河 山名：鷹ノ巣山・岩岳  
 リーダー：倉橋 智司
- 3月19日(日) ☆  
 山域：丹波高原 山名：青葉山  
 リーダー：近藤 政仁
- 3月25日(土) ☆  
 山域：春日井三山  
 山名：弥勒山・大谷山・道樹山  
 リーダー：奥野 明美
- 3月26日(日) ☆ 新入会員対象  
 山域：瀬戸 山名：物見山  
 リーダー：金谷 正起

**山行対象者** 支部友会員及び支部会員  
**申込み方法** 支部友会員は申込締切日までに、各山行リーダーが示す方法で申し込む。  
 〈申し込み開始〉支部友会員は山行日の3か月前から、優先は1ヶ月です。  
 支部会員は山行日の2か月前から、山行の募集人員を超えない範囲で参加申し込みを受け付けます。

### 次回支部友ミーティング 開催内容のお知らせ

#### 第54回「予告」「朝明ミーティング」

日時：10月8日(土)9日(日)

場所：朝明茶屋

1日目分散登山(鈴鹿連峰)夕食 バーベキュー  
 2日目 実技講習開催 午後解散

#### 第55回「予告」「忘年会・新入会員歓迎会」

一年間を振り返り親睦を深め合います。

日時：12月13日(火)

場所：レストラン リビエール(セントヒサヤビル10F)名古屋テレビ塔前

会費：3,500円予定

**支部友会員数**(令和4年8月末現在)／61名

#### リーダー連絡先

尾上 昇 FAX：052-832-3878

メール：[onoe@onoec.co.jp](mailto:onoe@onoec.co.jp)

金谷 正起 携帯：090-9931-3600

メール：[kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp](mailto:kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp)

榊 将美 携帯：090-7237-4410

メール：[m.sakaki@minds-consulting.jp](mailto:m.sakaki@minds-consulting.jp)

村瀬 恭平 携帯：090-4186-9876

メール：[hoshizakari@docomo.ne.jp](mailto:hoshizakari@docomo.ne.jp)

田中 進 携帯：090-9191-8666

メール：[t-susumu@peace.ocn.ne.jp](mailto:t-susumu@peace.ocn.ne.jp)

今津 英一朗 携帯090-2616-7549

メール：[imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp](mailto:imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp)

磯部 隆 携帯：090-9180-7245

メール：[takass@yk.commufa.jp](mailto:takass@yk.commufa.jp)

高松 信治 携帯：090-3156-5268

メール：[takama2nobu3@yk.commufa.jp](mailto:takama2nobu3@yk.commufa.jp)

松本 陽子 携帯：090-7859-4031

メール：[yo-kom@nifty.com](mailto:yo-kom@nifty.com)

水野 猛志 携帯：090-5866-3781

メール：[r34668@bma.biglobe.ne.jp](mailto:r34668@bma.biglobe.ne.jp)

近藤 政仁 携帯：090-2183-8125

メール：[vft55ud55@gmail.com](mailto:vft55ud55@gmail.com)

倉橋 智司 携帯：090-8673-7180

メール：[ilyt6by8@qc.commufa.jp](mailto:ilyt6by8@qc.commufa.jp)

奥野 明美 携帯090-9923-4292

メール：[tac-okuno@mbi.nifty.com](mailto:tac-okuno@mbi.nifty.com)

## 委員会報告

### 山行委員会だより

#### ●天狗堂～滝谷山周回山行に参加して

(2021/10/30)

小又第一駐車場から200m程西へ道路を歩き、橋を渡ったあたりで、尾根に取付くが、いきなりの急登（地図では高度10mほど崖マーク）。木につかまりつつ50m程登るとゆるやかな稜線になるが、しばらくするとシャクナゲが多い岩場となり正解の道がわからず、シャクナゲをかき分けたり、先の様子見しつつ巻いたりしながら進み展望岩に到着、少し紅葉もあり青空と白い雲と山並みの綺麗なコントラストが見られた。ここからは一般登山道で天狗堂まで行き、サンヤリへ。

サンヤリからは迷いやすいと大矢リーダーからの注意もあり、ポイントごとに止まり地図とコンパスで皆で確認しながら慎重に進む。一番迷いやすい箇所も間違えずに無事に滝谷山へ到着。

迷わず遅くならずに到着したので帰路は林道へ向かわず（時間によっては林道で帰ることになっていた）、予定通り838mピークを通る稜線ルートへ。最後の沢へ降りる方角を間違えると絶壁になってロープを使用しないと下りられなくなるので、なるべく西に向かい、東側へ行かないようにとリーダーからの話もあり、最後の急坂になる辺りでコンパスで下りる方角をセット。広い尾根で木もまばらでどこでも歩けるため、急坂にとらわれて滑落しないようにつかまりやすい木を求めて下りると、方角を気にしなくなりそうなため方角が逸れないように何度もコンパスで方角を確認しながら慎重に150m程を下ると無事に沢に到着。GPSに頼らず地図とコンパスで頭で考えながら歩くのも楽しく、激登り、激下りなどもあるため完歩した達成感もあり、充実した山行であった。

(参加者：遠藤ちさと)

#### ●八ヶ岳（赤岳）夏山山行に参加して

(2022/7/20～21)

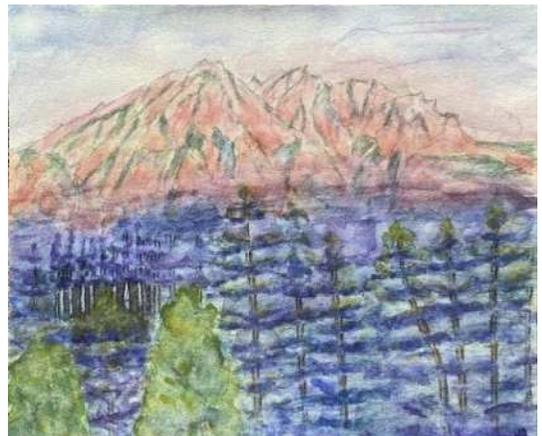
戻り梅雨のような雨の続く中、奇跡的に晴れた2日間の山行。メンバーは5人。美濃戸から南沢をとり行者小屋経由で頂上山荘へ向かう。ちょうどコマクサの季節で群生に出会えるかもとの期待は大きかった。

南沢のルートは気持ちが良い。苔と樹林、川の音、涼しい風も吹いて、気持ちもゆったりしてくる。予想通り、文三郎尾根の上部は期待以上の花が待っていた。イワツメクサ、リンドウ、コマクサ、紫のオダマキ等々、他に名も知らぬ花も多く、あっちにコマクサ、こっちチングルマと眺めるのに忙しい。山の花は皆健気で可憐、心惹かれる。

頂上山荘は本当に赤岳頂上にあり、居ながらにしてテレビ塔の展望室にいるよう。360度の展望で、南アルプスの山脈が良く見える。上に山脈、下に佐久市だろうか、街並みがくっきりと見えて不思議な感覚だった。

翌日は生憎のガスで展望はきかなかつたが、十二分に赤岳を堪能できた。楽しい山行にして下さったメンバーの皆様、そして誰よりもリーダーありがとうございました。またご一緒に下さい。

(参加者：大倉昌美)



『行者小屋より赤岳を仰ぐ』

参加者：武内喜代子 画

【亀の会】

亀の会の現状報告

亀の会会員の年齢構成の推移

年齢構成は、逐年上方にシフト。現在、75歳以上が、全体の7割。

発足以降、ほぼ毎年傘寿（数え年80歳）のお祝いを続けている。

2019年から米寿（数え年88歳）祝いの山行が加わり、以降毎年続く。

2021年は、卒寿（数え年90歳）祝い山行が加わり、以降毎年続く。



長命寺山頂にて

の傾向にある。「WITH老化」の中で、「卒寿まで山歩きを」を目標に山歩きを楽しんでいきたい。個人差が大きくなってきているが、亀の会としてどのように運営していくかが、大きな課題である。「ワイガヤ論議」で試行錯誤を経ながら、いい方策が出ることを期待している。

米寿・傘寿のお祝い山行

長命寺山へ登り琵琶湖畔で小宴実施

・亀の会米寿・傘寿到達者のお祝い山行を4月28日長命寺山(滋賀県近江八幡市)で実施した。米寿1人、傘寿4人、参加者は21人。

・長命寺は、聖徳太子が武内宿弥(300歳以上の長寿を保ったとされる)が巨木に彫った「寿命長遠諸願成就」の文字を発見し、その霊木で千手観音を彫り、それを本尊として、長命

満年齢 単位：人

※は視覚障がい者(内数)

年齢	2011年 1月	2017年 1月	2022年 5月
最高齢者	83歳	86歳	89歳
85歳以上	0	1	10
84歳～80歳	2	9	9
79歳～75歳	21	12	17
74歳～70歳	14	23	7 ※2
70歳未満	20	11 ※3	8 ※2
計	57	56	51

「卒寿(数え歳90歳)まで山歩きを」を目指す。

・亀の会の目標は、2013年発足時の「傘寿まで山歩きを」から、今や「卒寿まで山歩きを！」に変わってきた。

「卒寿まで」の目標は、夢物語ではない。現実のものとなっている。昨年(2021年)、初めて卒寿到達者を祝った。来年(2023年)には、二人目の卒寿到達者を祝う。以降、このままいけば、毎年卒寿者を祝える見通しだ。

・亀の会会員は全体的に年齢が上がってきた。年を重ねるにつれ、体力・気力が衰えていくのは避けられないが、会員同士が、お互いの元気な姿を見て、元気をもらっている。

元気な高齢者仲間を見ると、「あの人の歳まで頑張れそうだ。」という相乗効果がある。

・「身の丈にあった山」は、次第に「歩行時間が短く、易しい山」



左 傘寿の尾上 昇氏、安藤忠夫氏、浅井富士子さん、加藤和子さん  
右 米寿の神谷清子さん

寺を開基したとされている。(西暦619年)  
・9:50長命寺で健康長寿を祈願し、長命寺山(標高333m)～奥島山(424.5m)～近江八幡国民休暇村・宮ヶ浜まで休憩・記念撮影含みゆったり歩いて4時間。

広い琵琶湖の湖畔、比良山系を背景にした宮ヶ浜で、米寿・傘寿到達者を祝う祝宴を開いた。

風も弱く日陰の方がいいくらいの暖かさ。宮ヶ浜は、水際まで芝生がある水泳場で、日本水泳場88選に選ばれている。景色のいい場所だ。小1時間ほろ酔い気分になったところで、車中の人になり、17:20金山で、笑顔を残しながらの解散となった。

亀の会 加藤守彦

## 第18回東海岳人写真展実施方法決まる!!

### 写真展実行委員会

来年、2023年2月21～26日、名古屋市民ギャラリー栄にて、第18回東海岳人写真展を開催します。開催方法の詳細と応募用紙を支部報に同封しました。奮ってご応募ください。

今回の写真展の主要な特徴は、幅広く出展して頂けるように、

- ① スチロール製パネルによる出展費用の値下げ、
- ② 全紙サイズ並のA2判に加えて、初・中級者向けにA3判も出展可とし、
- ③ 希望する方には、写真教室やメールにて、選定、修正、トリミング等の相談に乗ります。

(Information 参照)

これまでの出展者の方は勿論、初めての方も振るってご応募ください。

### ◎主な募集内容

- ・募集期間;10月1日～11月30日
- ・応募点数と写真サイズ;A2 または A3 判、合わせて一人2作品まで
- ・出展費用;A2判で9千円、A3判で6千円



写真パネル見本：左 A2 判(マット B2)、右 A3 判(マット B3)

# 会 務 報 告

## 【2022年6月常務委員会】

- 1. 支部長挨拶（高橋）**：夏山フェスタは 5374 人の参加があり盛況の内に終了した。インドヒマラヤ遠征隊と山田利行氏のマナスルへの出発は、無事出国をした旨報告があった。
- 2. 総務委員会（今津）**：当月の入退会は、入会 3 名、退会 5 名だった。東海支部保有のマイクとスピーカーは古くなり、新しい物に買い替えをした。①今回、山田利行氏のマナスル遠征（速攻無酸素登頂）にあたり、助成金としてチャレンジ基金から支出する事とした。今後 3 年間継続していく遠征事業については、此れを支援する為、「山トシ基金」を新たに創設していきたい旨報告された。②草野氏から 300 名山一筆書きの計画についての説明があった。東海支部として、テントの幕営地費用や食糧支援の助成金としてチャレンジ基金から 10 万円を支出する事とした。③テントの管理について、山行委員会の稲葉氏からテントの一部破損について報告があった。新しいテントの購入希望が出された。テントの利用については種々なイベントの中で使用されるが責任が明確でない為、破損状況の把握が遅れる。管理方法については装備委員会とも協議して明確にしていく事とした。
- 3. 県岳連（鈴木）**：各セミナーの紹介案内の後、岳連会員の減少に伴い会員拡大の協議がされた旨報告された。また講習会等の開催変更通知と、今後の行事予定の報告が発表された。最後に霞沢岳の事故報告について報告があった。クライムダウンの際にリーダーが滑落。ヘルメットは未着用だった。
- 4. 支部友委員会（金谷）**：5 月 6 月の山行は問題なく終了。三重県警から鈴鹿に於ける山岳遭難の話がなされた。委員会から 10 名の参加とリモート参加が 12 名あった。夏山フェスタ開催中、支部友勧誘に伴い、体験登山の申し込みが 17 名あった。
- 5. 山行委員会（稲葉）**：山行計画・実施状況の報告は記載の通り。安全登山に努める。今年度よりリーダー育成の訓練登山を始めている。テントの利用については使用前確認を徹底している。
- 6. 亀の会（加藤）**：提出資料の通りで補足事項は無い。
- 7. 猿投の森づくり委員会（和田）**：ワイガヤ講

座の開催を 7/16 に行う。テーマは森の間伐材など利用した省エネ発電で SDGs の取組。講座に参加してほしい旨報告があった。

**8. 東海ユース（服田）**：会員動向は退会 1 名で現在 12 名。定例山行は 6/4 五井山にいった。林道上でマムシが出た。7 月・8 月は定例山行を中止。夏山フェスタ開催で 2 名勧誘。7/17 に体験山行を実施。11/3 故大島指導員の追悼式を現地で開催する。

**9. 学生連盟（丸岡）**：6 月活動報告は 5/28 ボランティア登山実施。6/1 報告会。6/5 沢登りの実施。6/15 定例会で今後の予定の確認。6/19 沢登り。新しい学生が増加。6/23 焼肉懇親会は 20 名程の参加予定。（内訳：名大・大同・南山・名工大）

**10. 登山学校運営委員会（服田）**：7 月から第 6 期スタートする。夏山フェスタで来期の受講生枠 23 名は埋まった。7/9 に第 5 期の修了式と第 6 期の入校式を行う。第 5 期受講生は 32 名で満期終了者 15 名は支部員に転籍する。同窓会運営要領を改定し、役員体制の一部変更をした。会長・副会長の 2 名体制から、会長・代表・副代表の 3 名体制とした。

**11. ボランティア委員会（前田）**：5 月以降、知的障がい者登山・視覚障がい者登山・裁判所の指定管轄登山は終了した。今後の予定として視覚障がい者全国交流登山が 9/23～25 大分で行われる。また秋には、委員による BBQ 合宿・登山。定例行事のブラインド登山・裁判所による登山を予定している。親と子の登山教室はコロナにより中止になった。

**12. 遭難対策委員会（高松）**：4 年度 5/1～31 登山届は 73 件あった。57 件はリスクチェック表の提出があった。グレード 3 は無かった。7 月 22 日委員会山行は赤木沢を計画、7/9 夏山気象講座、8/21 装備講座を行う。定例ミーティングでは 5 月・6 月実施の山行の報告をした。山行委員会の稲葉氏から 2 点指摘事項があった。

**13. デジタルメディア委員会（井上）**：総会支部便りを支部からメール発信している。登録数は 6/1 現在、支部員 351 人に対して 202 名・支部友 42 名に対して 11 名登録している。登録数は減少傾向にある。今後はチラシ配りや、総務委員会や各委員会で未登録者を調べて登録の促進を計りたい。

14. **技術向上委員会(清水)**:危険生物に注意、その2を掲載した。猪・月ノ輪熊・ヒグマ。ヒグマなどは特に出会わない事が重要で熊スプレーなどあっても決定的な対策にはならないこともある旨報告された。

15. **古道調査委員会(西山)**:4月・5月の調査について次回の支部報に報告する。今後は大台ヶ原の古道調査を提案する予定。その後は尾鷲周辺の調査を検討している。

出席:高橋、今津、前田、和田、高松、井上、西山、千葉、丸岡、鈴木、草野

リモート参加:服田、金谷、稲葉、佐野、清水

### 【2022年7月常務委員会】

日時:7月27日(水)19時(ZOOMとの並行開催)

1. **支部長挨拶(高橋)**:インドヒマラヤ隊、7/5・7/9 登頂成功。新型コロナの関係で隊の一部の帰国が遅れている。

新型コロナの感染者が多い。各委員長は行政発表の行動制限に沿って判断すること。

2. **総務委員長(今津)**:支部員退会、一人。夏フェス助成金、中部経済新聞より入金あり。本部研修費、指導者リーダー講習3~4名分助成される。費用は支部から負担する。登山学校から参加予定。

花王から自然保護協力金として本部に寄付があった。本部より各支部へ入金予定。(自然保護に使用の報告が必要)

3. **支部友委員会(金谷)**:支部友ミーティング

8月9日(火)「山登りにおけるスマホ・パソコンの活用」夏山フェスタで入会された人を対象。朝明ミーティング、実施予定。

会員入会16名(夏山フェスタから)現在54名。他5~6名入会予定。

4. **山行委員会(稲葉)**:新規山行委員に入った人で事務担当者は山行を提案して山行委員に実施してもらうこととする。

テント購入手続き中。山行委員の装備使用時に使用料を徴収している。山行委員会で支部の会計とは別に管理している。年に一回程度で支部に入金することとする。

5. **亀の会(加藤)**:杉山基金の使い方を検討した。個人の山行費用を上限を定め補填する方法を採用する。新入会2名、現在53名。

6. **東海ユース(服田)**:9月3日定例山行予定。1名体験参加(高校生)10月朝熊山予定。7月17日体験山行した人は入会見送り。

7. **学生連盟(丸岡)**:6/26沢登り。6/29焼き肉懇親会。7/16~17鳳凰三山。7/20定例会。

10/15~16ゴザフェス

8. **青年部(荒木 欠席 トーレス代わって口頭報告)**:上高地の山研を借りて懇親会。10月29日~30日。10/15~16ゴザフェス、青年部がサポートする。

9. **東海支部報(星)**:171号、10/1発行予定。

10. **登山学校(服田)**:緊急事態宣言、まん延防止等重点措置などの発令がない場合は山行実施。

机上講習8/21【登山の基礎知識】【装備、夏山編】9/10【読図、基礎編】【山岳遭難事故の現実】

第6期、山行交通費の補助は【なし】とする。

7/9(土)第5期修了式、第6期入校式、机上講習【夏山の気象】

11. **ボランティア委員会(前田)**:視覚障がい者全国交流登山大会。コロナ感染拡大のため中止。秋のブラインド登山、11月に予定、夏焼城ヶ山。夏のひまわり登山、8月7日伊那傘山。

秋のタンポポ登山、10月21日猿投山。秋のひまわり登山、10/29~30沼津アルプス。ボランティア委員会合宿登山10/1~2。

山岳会、視覚障がい者会費について。視覚障がい者4名、支部費を半額にする。他の障がい者手帳を持っている方の会費については、検討していく。本部の会費の割引については意見書を作成して陳情する。

12. **遭難対策委員会(高松)**:救急法講座、11/23菟野町消防本部。

遭難対策規定について見直し案が高松委員長から提案された。各委員会で検討して意見があれば今津総務委員長にメールで連絡をする。

13. **写真展実行委員会(伏屋)**:2023年2月21日~26日栄で写真展開催予定。従来のA2判だけでなくA3判の展示もできる。

写真教室について。2回目7月7日、3回目11月3日。

14. **デジタルメディア委員会(井上氏欠席、今津氏代理)**:メールマガジン登録協力依頼。

15. **技術向上委員会(清水)**:道迷い防止講習会、机上講習第一候補10月15日(土)、第二候補16日(日)。講習登山、第一候補11月6日(日)第二候補11月5日(土)10名程度、左門岳。

16. **山田利行さんの支援について**

9月末マナスル登頂予定。本部が20万円助成、東海支部員トーレスさん50万円寄付、東海支部チャレンジ基金から30万円、合わせて100万円で応援する。次回からは山田利行さん

基金を作って寄付を募る。山田利行さんは3年計画でヒマラヤ登頂を考えているので東海支部はバックアップしていく。

スポンサー、寄付の協力をお願いします。

#### 17. 岐阜支部 50 周年記念について (高橋) :

参加依頼、10月23日～24日ひだホテルプラザ、記念山行、猪臥山。

参加者：高橋、今津、金谷、稲葉、加藤、服田、丸岡、トーレス、星、前田、高松、伏屋、清水、千葉

#### 【2022年8月常務委員会】

日時:8月24日(水)19時(ZOOMとの並行開催)

#### 1. 支部長挨拶 (高橋)

・相変わらずのコロナの影響を受けて、山小屋閉鎖なども聞かれ、雨天の日も多く遭難事故のニュースも入ってきている。

山岳会としては行政の指示に従い、現在行動制限がでていないが十分に注意して事故等の無いようお願いしたい。

#### 2. 総務委員会 (今津)

・支部員 入会 2 名(転籍 1、手続中 1)退会 1 名

・本部リーダー研修について、参加者募集中に定員に達したため今回東海支部からの参加無し。(リーダー育成の必要性からも柔軟に対応していくので積極的に手を挙げて欲しい。参加費は支部より助成)

・遭難対策規定・要領の改定について遭難対策委員会よりより案を提示していただいたが個別の会の提案については、別途委員長と協議させていただく事とする。

#### 3. 愛知県山岳連盟 (鈴木)

・全国遭難対策協議会資料によると令和3年度においては事故が増加しており、低山での道迷い等の事故発生が顕著であった。

・学連加盟団体に行ったアンケートによると、新規加入者数は2019年以降大きく変わっていない。入会のきっかけは、口コミ、ホームページ等により、30代40代50代が多くスポーツ経験者無しの人も多い。

#### 4. 支部友委員会 (金谷)

・7月8月の山行について、天候不順ではあるが順調に行われている。

・8月9日に『パソコンを利用した地形図の作成』/講師鈴木慎吾氏を行ったが大変わかりやすかったと好評だった。

・朝明ミーティングについては今のところ実施の方向で検討している。

・会員数について、夏山フェスタで多数の入会

者があった。女性の加入数の方が多く、年齢は40代50代が多数。

#### 5. 山行委員会 (稲葉)

・山行委員会は8月実施していないので特に報告事項はなし。

山行実施においては引き続き十分な感染対策、体調管理に留意して欲しい。

・遭難対策規定・要領の改定については9月の山行委員会で協議予定。

#### 6. 亀の会 (加藤)

・以下のことを確認、共通認識とした。

\*コロナ感染拡大下における山行計画立案と実施時の注意事項

\*杉山基金の使用方法について(領収書の添付ができる形の支出とする)

\*公共交通機関を利用した場合の参加費について

\*個人キャンセル料の改定

\*遭難対策規定・要領改定について意見を具申

・会員数 53 名

・緊急連絡先の変更 副支部長 今津、支部長 高橋

#### 7. 猿投の森づくりの会 (和田)

・定例作業、行事予定共に資料通り。今後についても予定通り実施していく。

・令和4年度の緑化推進機構からの助成金は85万円となった。(昨年度35万円)

会の活動が評価された事と共に、佐野氏の口添えによるものと感謝している。

#### 8. 東海ユース (服田)

・会員動向変わり無し。

#### 9. 支部報 (星)

・東海支部報第171号(10/1発行予定)原稿締め切りは8月末。

・印刷部数及び余剰部数処理は総務部の管理

#### 10. 東海山岳 (星)

・掲載記事はそろってきたので9月に編集会議を予定。年内の発行の予定で進めていく。

#### 11. 青年部 (トーレス)

・新規入会 2 名

・1月雪上訓練 2月八ヶ岳合宿 を予定

#### 12. 学生連盟 (丸岡)

・ゴザフェスについてはメルマガにて周知、参加者を募る。原稿今津まで

#### 13. 登山学校 (服田)

・行動規制がかかっていないので各クラスの山行は予定通り行う。

・机上講習については第2回を終了。

#### 14. 海外登山（高橋）

・8/31 東京にて山田利行君との面談予定（支部旗を手渡す）低圧室にて順応後出国。春先帰国後しばらく滞在の予定。

#### 15. ボランティア委員会（前田）

・夏のひまわり登山 8/7 は無事終了。  
 ・メルマガ登録は登録要請を行っている。  
 ・10月11月のボランティア登山について支援者の募集を含め準備を進めている。

#### 16. 遭難対策委員会（高松）

・7月登山届. チェック表提出 55 件中 41 件（グレード3は0件）  
 ・8月21日登山学校. 支部友. 遭難対策の3委員会合同による装備講座を実施。  
 講師 千葉泰丈氏

・11月29日(9:00~12:00) 菰野町消防本部にて『救急法実施訓練講習会』を実施予定。

#### 17. デジタルメディア委員会（井上）欠席

・ユーチューブチャンネルを作成しカンチエナップ動画をアップした。  
 ユーチューブの利用活用をお願いしたい。

#### 18. 技術向上委員会（清水）

・「道迷い遭難防止講習会」を10月15日(土) 14:00~16:00 東海支部ルーム  
 「道迷い遭難防止実地講習会」を11月6日 左門岳(1224m)を開催予定。9月メルマガ・支部報同封チラシにて広報。

#### 19. その他

・本部より依頼のあった田原アルプス山行の原稿は総務部志水さんに依頼、目下作成中。  
 ・亀の会よりメルマガ登録についてメルマガ受信環境が整わない会員もいることに考慮をお願いしたい。  
 ・支部長より唐松岳山行同行参加者お願い 現在4名。  
 参加者：高橋、今津、金谷、稲葉、加藤、服田、丸岡、トーレス、星、前田、高松、伏屋、清水、千葉、佐野、鈴木、和田、稲葉

#### ルーム日誌

―― 5月 ―――  
 大会議室 / 小会議室  
 3(火) 県岳連  
 5(木) 写真展実行委員会  
 6(金) /古道塩の道  
 9(月) 登山学校運営委員  
 10(火) 支部友委員会  
 11(水) 山行委員会 /総務委員会

12(木) 自然保護委員会  
 13(金) 猿投の森づくり自然観察会  
 15(日) 東海支部総会  
 16(月) 図書委員会・読図会  
 17(火) ボランティア委員会  
 18(水) 東学連 /技術向上委員会  
 19(木) 正副支部長会議/総務委員会  
 23(月) /支部友読図会  
 25(水) 常務委員会  
 31(火) 遭難対策委員会

#### ―― 6月 ―――

1(水) 青年部 TNCC  
 2(木) 写真展実行委員会  
 5(日) 東海ユース  
 6(月) 支部友委員会  
 7(火) 県岳連  
 8(水) 山行委員会  
 9(木) 自然保護委員会  
 13(月) 登山学校運営委員会  
 14(火) 支部友ミーティング  
 15(水) 東学連 /技術向上委員会  
 16(木) 正副支部長会議 /総務委員  
 20(月) 図書委員会・読図会  
 21(火) ボランティア委員会  
 22(水) 常務委員会  
 27(月) /支部友読図会  
 28(火) 遭難対策委員会

#### ―― 7月 ―――

3(日) 学校指導員研修会  
 4(月) 支部友委員会  
 5(火) 県岳連 /TNCC  
 6(水) /青年部  
 7(木) 写真展実行委員会  
 9(土) 登山学校机上講習会  
 11(月) 登山学校運営委員会  
 13(水) 山行委員会  
 14(木) 自然保護委員会  
 15(金) 亀の会  
 18(月) 図書委員会・読図会  
 19(火) ボランティア委員会  
 20(水) 東学連 /技術向上委員会  
 21(木) 正副支部長会議 /総務委員会  
 25(月) /支部友読図会  
 26(火) 遭難対策委員会  
 27(水) 常務委員会

- . . . 8 月 — . . . — . . . — . . .
- 1 (月) 支部友委員会
  - 2 (火) 県岳連 /TNCC
  - 3 (水) 青年部
  - 4 (木) 写真展実行委員会
  - 9 (火) 支部友ミーティング
  - 10(水) 山行委員会
  - 11(木) 自然保護委員会
  - 13(土) 猿投の森づくり自然観察会
  - 15(月) 図書委員会・読図会
  - 16(火) ボランティア委員会
  - 17(水) 東学連 /技術向上委員会
  - 18(木) 正副支部長会議 /総務委員会

- 21(日) 登山学校机上講習会
- 22(月) 支部友読図会
- 24(水) 常務委員会

### 会員異動

- 入会**：草野駿希(16961) 水戸智子(16964)  
 福井玲司(16966) 鈴木寛人(14145)
- 退会**：服部由紀(16492) 南 聡(16446)  
 木全紀之(15946) 安井 達(16423)  
 渡部絹代(16377) 越智弘幸(16496)  
 林 順子(14292) 前川みどり(14639)  
 山田悦史(15088)

## I N F O R M A T I O N

### 【総務委員会からのお知らせ】

#### △装備講座「冬山編」開催のお知らせ

下記の講習会を開催します。  
 日 時：12月4日(日)  
 場 所：OMCビル  
 募 集：60名  
 支部友会員・登山学校受講生など初心者優先ですが、それ以外の方も当日受付で参加可能です  
**登山学校運営委員長 服田康宏、支部友委員長 金谷正起 遭難対策委員長 高松信治**

#### △東海学生連盟 ゴザフェスの案内

場所：鈴鹿山脈 御在所岳  
 日程：10月15日(土)、16日(日)  
 15日体験クライミング、藤内小屋にて交流会  
 16日様々なルートに分かれて山頂を目指す  
**連絡先：[tougakuren2022@gmail.com](mailto:tougakuren2022@gmail.com)**  
**または Twitter([@tsmf\\_jactokai](https://twitter.com/tsmf_jactokai))、**  
**Instagram([tokai\\_climbing\\_students](https://www.instagram.com/tokai_climbing_students))のDM**

### 【写真展実行委員会からのお知らせ】

東海岳人写真展に出展したいが、どの写真が良いか、どうやってトリミングや修正したら良いかお迷いの貴方。写真展実行委員会が11月3日の山の写真教室(初級・中級)か、メールで相談に乗ります。  
 1 第3回山の写真教室(初級・中級)  
 第3回は11月3日(木)午後6～8時、支部ルーム会議室で行います。講師；竹島宏侑(キャノンフォトクラブ名古屋代表)。参加費無料。  
 内容は、これまでと同様の①写真の添削に加

え、②写真展出展作品の相談(選定、トリミング、画像の修正、など)も行います。  
 ◎申込方法:下記アドレスにメールをお願いします  
 shasinten@jactokai.net 担当;伏屋支部員、支部友、猿投の森の会員対象No.と氏名、①写真添削か、②写真展出展作品の相談を記入  
 添付：写真のファイル jpg ファイル 6枚以下(ファイルサイズの合計を10メガ以下とする)  
 締切；11月2日  
 2 メールによる、写真展出展作品の相談  
 1と同様、写真展出展作品の選定、トリミング、画像の修正、などの相談は、適宜メールにも対応します。1と同様、相談内容と共に写真を添付し、下アドレスにメールをお願いします。竹島講師の指導が無料で受けられます。締め切りは、11月20日まで。  
 shasinten@jactokai.net

**写真展実行委員会 伏屋 満**

### 編集後記

贅田統亜氏が亡くなられた。支部の歴史を知る先輩が亡くなられた。氏が名古屋勤務となり東海支部に姿を現した1969年頃は、マカルー計画が実行に向かっていた時であった。当時の支部報を見ると「第1に感じられることは、若さとバイタリティーのあふれている」会だと当時のルームの様子を述べておられる。

コロナ前は晩餐会で、また東宮御所での海外登山報告では大変お世話になりました。

心よりご冥福をお祈りいたします。

**星 一男**

SINCE 1975  
**mont-bell**  
FUNCTION IS BEAUTY

最新情報はこちらから  
[www.montbell.jp](http://www.montbell.jp)



0088-22-0031 06-6536-5740

株式会社 **モンベル** 【お問い合わせ】モンベル・カスタマー・サービス

法務相談は行政書士にお任せください!

相続 会計 許認可

**1時間無料相談**

あなたの不安を解決に導きます

遺言書、遺産分割協議書、  
法定相続情報一覧図作成、任意成年後見の相談など



西山行政書士事務所 ☎052-961-6506

名古屋市中区丸の内3-21-21丸の内東桜ビル1004  
[www.nygs-office.com](http://www.nygs-office.com)

久屋大通駅  
徒歩1分

『東海支部報』では、  
広告を募集しております

表4(裏表紙)掲載

※掲載のご希望・お問合せは

[jactokai107@gmail.com](mailto:jactokai107@gmail.com) まで

\*\*\*\*\* OMC \*\*\*\*\*

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014  
名古屋市中区富士見町8番8号

\*\*\*\*\*

オフィスに関する悩み事、丸天産業が全て解決します。

ファシリティマネジメントによるオフィス構築や  
デザイン、インテリアやセキュリティなど  
オフィスのすべてが揃っています。

オフィスのお困りごとを丸がかえでお応えいたします。



郵送無料 Honesty

コンサルティング事例集

オフィスに関するお悩み事の解決事例が載っています。  
お申込みは下記までお電話ください。

株式会社 丸天産業

本社 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄5丁目10-34  
TEL: 052-241-3686 FAX: 052-241-0457

企画・デザイン・印刷



株式会社 浅井隆文社

〒461-0044 名古屋市東区矢田東1番22号  
TEL (052) 719-0677 FAX (052) 719-0678  
E-mail: [info@asai-rbs.co.jp](mailto:info@asai-rbs.co.jp)